

平成29年度が始まりました。昨年度に引き続き、日頃の「雑感」を綴ってまいります。
ご笑覧いただけましたら幸いです。

All for one, and one for all. No.102

H29.11.8 「薬物乱用防止及び防犯教室」

例年実施している「薬物乱用防止及び防犯教室」は、回を重ねる毎に生徒への自己管理意識の浸透に繋がっています。「一度手を出せば取り返しのつかない悲惨な人生が待っていること」を皆が真剣に考えるようになったと実感しています。これも、毎年ご多忙の中、ご講演をいただいている旭川東警察署の皆様のお蔭と感謝しております。



今年は薬物の恐怖に加えて、交通事故の恐ろしさについてのご講演もいただきました。事故に遭うことの恐ろしさはもちろんですが、残された方々の心

の大きな痛みも決して消えるものではありません。ご紹介いただいた遺族の切実な叫びに、生徒だけでなく教職員も心震える思いがしました。

生徒の安全確保については、様々な視点から働きかけていく必要があると考えます。各関係機関や保護者の皆様からのご意見を反映しながら、適切に取り組んでまいります。



All for one, and one for all. No.103

H29.11.8 「体力向上ボトムアップ事業」

体育の「ダンス」の単位について、指導方法や授業改善を図ることを目的に「公開授業及び研究協議」を本校で行いました。講師の A—bank北海道 小塚 拓 先生はダンスの専門家ではありますが、何より授業の構成の素晴らしさに驚きました。



興味関心への導入には音楽を使い、自然に体がリズムを感じるようになったところで動作指導、基本の動きを前から横から見せることで、生徒は容易にそれを真似します。そして、この一連の動きの中に「ダンスの基本動作」、「ストレッチ」、「筋力トレーニング」がしっかりと織り込まれ、生徒は知らぬ間に様々な動きを体験し、身につけているといった具合です。そして、全員が無理なく楽しながら体を動かしているのです。

ダンスは見た目にも難しく、「一から創作してみなさい」と言われてもそう簡単にできるものではありません。しかし、今回のようにその複雑な動きを紐解き、ダンスがその基本動作の組み合わせで構成されていることを理解すると、今度は生徒の方がその組み合わせを自分で考えようとしてくれます。グループで話し合い、創作内容を皆で考えるのに時間は要しません

でした。そして、グループ毎の発表では、皆で他者を讃え合えます。

ダンスの「技能を楽しく理解」し、その「技能を活用」し、皆で「考え」、「発表する」という大切な要素が全て盛り込まれている、実に参考になる授業でした。

後半の研究協議では、北海道教育大学旭川校から小出 高義 先生にご来校いただき、体育授業の在り方や教科指導の工夫等についてご助言をいただきました。



今後も体育の授業に限らず、全ての授業がさらに生き生きしたものになるよう、教職員の研修を重ねていきたいと思います。お二人の先生方、本当に有り難うございました！

All for one, and one for all. No.104

H29.11. 9 「先端科学移動大学講演」

北海道青少年科学文化財団が主催するこの取組は、最先端の科学に触れることを通して、生徒自身に科学への興味関心を抱いてもらうことを主眼に行っているものです。

今回は理科の授業を使って、1年生全員を対象に、北海道大学大学院工学研究院の 永田 晴紀 教授に、「ロケット実験やその小型化」についてのお話をいただきました。



特別なものというイメージから身近なものに感じられてきたロケット技術、科学の急激な進歩を改めて実感します。また、生徒が「今後何を勉強していこうか」と考えるきっかけにもなりそうです。夢とロマンの宇宙への旅が、現実で身近なものになる日もそう遠くないのかもしれません。

この事業を進めていただいている北海道青少年科学文化財団 井口 光雄 副理事長様にも遠路札幌より足を運んでいただきました。心より感謝申し上げます。



All for one, and one for all. No.105

*エイリョウ・アラカルト 「冬の交通安全運動」

朝の職員打合せで、「本校マイカークラブ」から冬の事故防止に向けた留意事項の確認がありました。教職員の安全運転はもちろんのことですが、積雪時の交通事故防止に向けた生徒への注意喚起も併せて行っているところです。

運転する側の不注意で、交通ルールを守っている歩行者が被害に遭うことも少なくありません。いつも以上に周囲の状況を確認しながら登下校するよう呼びかけています。

また、自転車通学は13日（月）から禁止となります。ご家庭におかれましても、冬の交通事故防止に向けたご指導をよろしくお願いします。

H29.11.11 「剣道新人戦支部予選、男子団体優勝！」

大成市民センター体育館で開かれた「北海道高等学校新人剣道大会旭川支部予選会」で男子が見事「団体優勝」を飾りました。強豪校ひしめく旭川支部にあつての優勝だけに喜びも一入です。現在の団体チームは2年次生主体で、他校との練習試合はもちろんですが、「絶対に負けない！」という気持ちからのチーム内での切磋琢磨も優勝に繋がる大きな要因だったのではないのでしょうか。いかなる苦境に遭っても最後まで粘り強く闘い続けようとする部員全員の気持ちが優勝を導いたのでしょう。



今度は各校から追われる立場になりますが、プレッシャーに負けない強靱な「永嶺魂」を持ち続けてくれることを期待しています。



また個人戦では、2年次生 吉岡 拓人君が堂々の優勝、白川 正太呂君も4位と日頃の練習の成果を思う存分発揮してくれました。

吉岡君に今回の勝因について話を聞くことができました。「相手を想定したイメージトレーニング」、「冷静さと最後まで諦めない粘り強さ」、「練習で磨いた得意の面を信じる」ことなど、アスリートらしいさわやかさで、はきはきと答えてくれました。男性から見ても「カッコイイ！」と感じさせる、芯のある素晴らしい剣士でした。

H29.11.13 「PTA生徒指導研修会」

北海道高等学校PTA連合会旭川支部主催の「生徒指導研修会」を、旭川トーヨーホテルを会場に午後4：30から開催しました。



支部長であります本校 堀江PTA会長様をはじめ役員の皆様方の多大なご尽力で、大変有意義な研修会にすることができました。この場をお借りし厚くお礼申し上げます。

高校生は「自立」の時期であります。新たな世界へ視野を拡げ踏み出すことは「素晴らしいこと」である反面、経験が未熟な分「危うさ」も伴います。

様々な場面で、異なる表情や言動をする子どもたちを、あらゆる角度から見守っていく必要があります。学校とご家庭、そして各関係機関が密接に連携していくことがより重要になってきます。

今年度は、旭川少年鑑別所の法務教官を講師にお招きし、非行少年の現状や更正・支援のあり方などについてお話を伺いました。「少年鑑別所」と「少年院」との違い、「心理技官」と「法務教官」の役割、「地域援助」のあり方など、初めて耳にする内容も沢山ありました。

また、昨今はネットトラブルから犯罪に発展していくケースも多く見られるそうです。何気なく行っているSNSが、知らないうちに知らないところで犯罪になっていく、考えただけでも怖ろしくなります。

今後とも三者が密接に情報を共有し合い、子どもたち皆を「明るい道」へと導いていかなければならないと思います。



All for one, and one for all. No.108

*エイリョウ・アラカルト 「ナナカマドの会賞」

第6回 井上 靖記念館エッセイコンクールで、1年次生の 福田 大貴君が「ナナカマドの会賞」を受賞しました。朝の打合せでも紹介され、昨年に引き続いての快挙に職員一同心弾む一日の始まりとなりました。

パソコンやスマートフォンといったIT機器の普及により、本に触れる機会が減法少なくなりました。本校では、少しでも本に親しんでもらうために「図書局員による新刊図書の紹介」に加え、定期的な「図書館だより」の発行、教科による「長期休業期間の課題」等、組織的な取組を継続しています。過日の



「旭川市児童・生徒読書感想文コンクール」でも1年次生の山田 愛加さんと山形 優真さんの2名が受賞するなど、その成果が様々な場面で徐々に顕れてきました。

子どもたちは、多様かつ無限の可能性を秘めています。その可能性の一つでも多く引き出し、伸ばしていく機会を設けることも、私たち教職員の大きな仕事の一つです。旭川永嶺生の今後の活躍がますます楽しみになってきました。

All for one, and one for all. No.109

H29.11.15 「2年次進路説明会」

本校の進路指導は3年間を系統的・計画的に進め、ポイントとなる時期には生徒だけでなく保護者を対象としたオリエンテーションも併せて実施しています。



過日、見学旅行を終えた2年次の次なる目標は「進路目標実現に向けた本格的な学習計画の立案」です。今回は受験制度や日程についての正しい理解と学習実践を促すことを目的に「生徒向け&保護者向け」説明会を実施しました。

進路指導部から「受験概要」に係る説明を行った後、進路別に分かれ外部講師を招いての説明会を実施しました。一生を決める大切な事だけに、生徒の表情にも

真剣みが伺われました。

夜は、ほぼ同内容で保護者対象の説明会を実施しました。お忙しい時間帯に加え、生憎の悪天候でしたが、130名ほどの保護者の皆様がご来校くださり、外部講師の詳しい説明に熱心に耳を傾けておられました。

進路を決める上で大切なことは、生徒と保護者が同じ理解のもと、一緒に考え、話し合

いを持つことです。その積み重ねが子どもたちの学習意欲を高め、進路目標実現に繋がっていきます。現在は高大接続改革も着々と進み、上級学校の受験制度や内容も複雑多様化しています。学校とご家庭が情報交換を深め、一人一人の進路を大切に考え、実現へと導けるよう、より実効性のある取組を推進していきます。



All for one, and one for all. No.110

H29.11.16 「旭川養護学校との交流会」

本校では養護学校の皆さんとの交流を通して、相互理解を図り、互いを敬いながら豊かな人間関係を育む機会を、年3回持たせていただいています。この日も1.2年生22名がこの交流会に参加させていただきました。



互いに自己紹介を交わした後、両校生徒会長の挨拶を皮切りに「ボッチャ」を楽しみました。ボッチャとは異なる色の木のボールを投じて距離間を競い合うスポーツで、プレーを通しながら、互いに言葉を交わし合い、応援し合い、楽しみ合う中で、両校の生徒の心が一つになっていきました。次回は音楽演奏を通した交流を予定しており、両校生徒の絆がさらに深まることでしょう。